

地域における乳幼児健康管理方式に関する研究

乳幼児健康管理の体系化

分担研究者 古川 武 温(富山県厚生部)
研究協力者 高野 陽(国立公衆衛生院)
村田 巧(立山町医師会)
牧野 貞子(立山町歯科医師会)
中田 慶子(富山県上市保健所)
堀 実子(立山町)

1. はじめに

地域における乳幼児健康管理体系の確立を図るため、昭和52年度から、富山県中新川郡立山町において、1歳6か月児健診事業を中心に、そのシステム化について検討してきた。

今年度は更に1歳6か月児健診から3歳児健診への継続的な幼児健康管理の体系化を目的に1歳6か月児と3歳児の両健診を受診した237名について、健診結果を対比し、養育上、健康上の問題について検討した。又、幼児の実態を把握する為、1歳児の罹患状況に関する調査・幼児食調査・養育者の育児に関する意識調査等の検討を加えたので、その結果を報告する。

2. 研究方法

1歳6か月児健診の事後指導の徹底を図るため、要経過観察児に対する継続した経過観察健診の実施、保健指導に必要な情報を得るための調査の実施、養育者の育児に対する不安、問題に対応するための体系のあり方を検討した。

(1) 経過観察健診、昭和52年度から引き続き要観察児に、2～4か月毎に経過観察のための健診を実施した。

(2) 1歳6か月児から3歳児までの継続観察

1歳6か月児健診と3歳児健診の結果を対比し、この間に発生した健康上の問題や養育上の悩みについて検討した。又、別に2歳児の養育者に対する意識調査結果から問題と思われる児に対し訪問指導を実施した。

(3) 調査

ア. 1歳児の罹患状況

世帯主が立山町国民健康保険に加入している1歳児122名を対象に、レセプトにより罹患状況を調査した。

イ. 幼児食調査

春、夏、秋の季節別に、食品別摂取状況を、1歳6か月児と3歳児の健康診査時を利用して調査した。

ウ. 養育に関する意識調査

養育にあたっている祖母、母親を対象に、1歳6か月児健診時および、ばあちゃん学級に参加した者に養育に関する意識調査を実施した。

(4) 衛生教育

ア. ばあちゃん学級

養育・養護・しつけの問題について幼児の特性の理解と養育上の悩みを解決する目的で、集団指導を実施した。

イ. むし歯予防学級

1歳6か月児と3歳児のむし歯罹患率を比較すると9倍にも増加しており、むし歯予防の徹底を図るために実施した。

ウ. 幼児食実習、幼児食調査の結果、幼児の特性を考慮していないと思われる食生活の偏りがみられたので、実習を主体にした講習会を行った。

3. 結果と考察

(1) 経過観察健診

1歳6か月児健診の結果にもとづき、選定基準に従い対象児を選出し、52年度から経過観察健診を実施してきたが、昭和54年11

月までの3年間の1歳6か月児健診対象児995名中(未受診児含む)17.6%175名が対象となった。

経過観察健診受診率は83.4%146名受診し、追跡の結果、観察項目が改善された児は、その63.7%93名である。今後も引き続き観察を要する幼児は、35.6%52名であり、そのうち37名は、訪問指導による経過観察を必要とし、9名は、今後とも医師、心理担当者、保健婦等のチームメンバーでの経過観察が必要な幼児である。

② 1歳6か月児健診から3歳児健診までの継続観察

昭和54年4月から11月までの3歳児健康診査受診児のうち1歳6か月児健診を受診している237名について、身体面、歯科衛生面、精神面、生活習慣面等の問題について両健診の所見を対比し、この期間に発生した健康、養育上の問題について検討した。この結果、身体面で、1歳6か月児健診から3歳児健診まで引き続き追跡し観察を続けている児は、ひきつけ1名、先股脱1名、心雑音1名、鱗屑症候群1名の4名である。歯科衛生面では、1歳6か月児健診時の、むし歯罹患率は9.2%であるが3歳児では81.4%と増加し、1人当りむし歯平均本数は0.2本から5.4本と増加している。精神面では、1歳6か月児健診から3歳児健診まで継続して追跡している児は4名(言語の遅れ2名、発達遅滞2名)である。

3歳児健診で、新たにチェックされた要追跡児は5名で、いずれも言語上の問題である。この5名は、1歳6か月児健診では特に問題はなかったが、別に実施した2歳児の養育者のアンケート調査で、言語の遅れが心配と答えられていた事例である。

行動上の問題では健診時養育者の訴えを中心に把握したが、1歳6か月児健診で、カンが強くよくぐずると答えた児31名中23名が、3歳児健診児でも、乱暴、わがまま、泣き虫、人みしり等を訴えている。又、短気、あばれるや指しゃぶりの訴えがあった児は、いずれ

も3歳児健診で、同様の問題を訴えている。一方、3歳児健診で行動上の問題のあった児について1歳6か月児健診の状況をみると爪かみ、指しゃぶり、わがまま、乱暴等の行動上の問題が多くみられた。又、53年度に行った「育児上の問題に関する調査」の結果、問題と思われる幼児56名について本年度は追跡のために家庭訪問を実施した。追跡対象を問題項目別にみると、上手に走れない8名、言語の遅れ45名等である。訪問結果、引き続き観察を要する児は16名で全員が言語の遅れが問題であり、残り40名は特に異常は見うけられなかった。

③ 調査結果

ア. 1歳児の罹患状況 1人当りの月平均罹患回数を見ると、0.5回から0.9回の児が、対象児122名に対し37.7%で最も多く、月1回以上罹患した者は、29.5%であった。性別では、男児に罹患回数の多いものがやや目立ち、月1回以上罹患した男児は37%、女児は23.5%であった。出生季節別にみると、夏期に出生した児に月平均罹患回数の高いものが多く、出生体重別では、出生体重の小さい群に罹患回数が多い傾向がみられた。疾病では、上気道疾患が最も多く、対象児の73.8%が罹患している。又、事故障害による受診は、26.2%で、性別では男児に多く、比較的出生体重の大きい児、自営業の家庭および同胞の多い幼児に傷害件数の割合が高いことが認められた。上気道疾患や事故障害は、幼児のもつ環境条件によって罹患回数に差が認められた。

イ. 幼児食調査 食品の摂取状況及び食品の摂取頻度等についてみると、1歳6か月児と3歳児では食生活パターンにかなりの差がみられた。

1歳6か月児では、蛋白質源として、豆腐、牛乳及びチーズ、ヨーグルト等の乳製品が3歳児よりも摂取量ともにも多く、緑黄色野菜、淡色野菜も、3歳児よりも摂取率が高い。間食も、ガム、チョコレートは摂取は少く、センベイ、ビスケット類が71.8

～63.1%（週3回以上摂取）と高率であった。

3歳児では、1歳6か月の時点よりも更に充実した食生活の形成途上にある筈であるが、調査結果からは、むしろアンバランスの傾向が強くみられた。蛋白質源として、肉類の摂取率は1歳6か月児より若干高かったが、豚肉、鶏肉等をほとんど食べない幼児が、11.7～41.5%も占め、あじ、カレイ、ヒラメ等の魚介類でも1歳6か月児よりも摂取率が低い。

牛乳の幼児期における目安量は1日2～2.5本程度とされているが、目安量を摂取している児は50%程度であり、チーズ、ヨーグルトの摂取率も低いことから、良質のカルシウム、ビタミンA・B類の供給源が不足の傾向にあるといえる。野菜の摂取率も全体的に低い。

1歳6か月児、3歳児ともに摂取頻度の少ない食品に、レバーや海藻類がある。

食品の摂取頻度からみると、調査48品目中、乳酸飲料、炭酸飲料、アイスクリーム、あめ、キャラメル等の糖分の多い嗜好食品が、3歳児に多く、食生活のアンバランスをもたらしている原因として見逃すことができない。季節別にみると、アイスクリームでは1歳6か月児、3歳児ともに、夏に多く、乳酸飲料は、3歳児では夏に急増しており、望ましい食生活習慣の形成を阻むものと危惧される。一方、塩分含有量の多い食品の摂取状況は、1歳6か月児で佃煮を週3回以上とっているもの10.8%、更につけもの、ふりかけ等については、53.3%～59.8%も占め、3歳児でも同様の傾向がみられた。

ウ. 養育に関する意識調査

祖母に対する調査結果では、育児を担当している祖母の年齢は、50歳代が最も多く、40歳代がこれに次ぎ、両者をあわせると40～59歳の者が全体の72.7%を占め、祖母としては比較的若い年齢層の者が多い。若夫婦と同居している者は、96.3%

を占め、祖母が育児を担当している理由は、全員が母の就労によるものである。質問の結果、「育児についての感想」では、仕方がない・義務等と受けとめている者はそれぞれ全体の42.6%、疲れると答えた者は、27.8%で祖母として育児がかなり負担になっていることが伺える。

「孫をどのように育てるつもりか」については、丈夫にしたい・病気になるように等、健康面に関することが多く、次いで、素直に・かしこく・よい子に・のびのび等、情緒に関することであった。又、母親まかせと答えた者が7.4%みられた。

「1歳6か月の幼児には何が一番必要と思うか」に対しては、しつけ70.4%、ことば93.0%、むし歯予防7.4%、危険防止9.3%等の項目に多い。

「間食の時間を決めて与えているか」については、決めていない方が63.7%と多かった。

母親に対する調査結果では母親の年齢は、25歳～29歳が52.1%と過半数を占め、職業は家事のみが53.8%、常勤者27.4%、自営業10.3%である。結婚歴でみると、3年未満20.5%、3年～5年未満37.7%で、5年未満の者が過半数を占めている。子どもの数は、1人48.7%、2人45.3%、3人6.0%である。

質問の結果、「子どもがおしっこや吐いたりして着ている物を汚した時」、汚ないと感じる者45.2%、「夜中に何度も泣いて起される時」、腹がたつと答えている者が28.2%と意外に多い。

しかし、「子どもの泣き声が激しい時」、うるさいと感じる者15.4%に対し、心配と答えた者が70.9%と多く、親心が伺える。

「育児から開放されたいと思うか」については、時々思うという者が74.3%もあり、子どもとの対応に苦慮していることが察せられる。「育児と家事・育児と仕事の選択」については、いずれもどちらともいえないと答えている者が多い。しかし、「母親が

育児をするのは」当然であると答えている者が89.7%と多く、育児が大変だから子どもがいない方が良いと答えている者は極めて少なかった。

(4) 衛生教育

ア. ばあちゃん学級

1歳10か月～2歳児を養育する祖母を対象に、子どもと一緒に遊びながら、幼児の発育について理解を深め、養育上の悩みや心配ごとを話し合う目的で学級を開催した。方法は、スライド、ディスカッション、遊びの実演等である。実施回数は2回、受講者は27組で、受講者の感想としては、受講内容を家に帰って実行したいと答えた者が84.8%あり、全員が家に帰って母親に話すと答えている。スライドについては、全員がわかりやすかったと答えており、しつけの内容についての人気が高かった。

4. まとめ

(1) 1歳児の罹患状況調査結果からは、幼児の生活環境の条件等によって罹患回数に差がみられ、指導にあたっては、幼児の家庭や養育条件等を把握した上で実施する必要がある。

(2) 祖母に対する意識調査では、育児をすることについて半ば仕方がないと消極的な面はあるものの、幼児にとって何が必要かについては、しつけ、ことば、むし歯予防、危険防止などの答が多かった。今後、育児が祖母の健康に負担にならないよう、母親との協力の仕方について配慮すべきである。

母親の意識調査では、育児から解放されたいと思う者が74.3%みられた。育児は、母親が中心となるべきであり、今後、母親の気持ちを理解するとともに、母親がもう少しゆとりを持てるよう働きかける必要がある。

(3) 幼児食調査からは、1歳6か月児と3歳児の食生活のパターンに差がみられた。

1歳6か月児では、蛋白質源(豆腐、牛乳、乳製品)、野菜類(緑黄色、淡色野菜)について、3歳児よりも摂取率が高く、間食は、ガム、チョコレート等糖分含有量の多い嗜好食品の摂取が3歳児よりも少い傾向にあること、塩

分含有量の多い食品の摂取状況では、1歳6か月児、3歳児とも同様に過剰摂取傾向にあることが認められた。従って望ましい食習慣やむし歯予防の基礎づくりとして、幼児期前半に適切な食事指導をすることは、きわめて有意義であるといえる。

(4) 1歳6か月児健診後の事後指導について

1歳6か月児健診後要観察児について、2～4か月毎の経過観察健診で追跡した結果、3年間の受診児146名中63.7%は観察項目が改善されており、今後引き続き観察を必要とする幼児では、精神発達に関するものが多かった。

又、2歳児の養育者調査で育児上問題と思われる児を家庭訪問により追跡した結果、言語の遅れが主な問題として残された。

又、1歳6か月児健診から3歳児健診まで継続して観察した結果からは、行動上の問題を1歳6か月児健診で訴えていた31名中23名が、3歳児健診時でも同様の問題を訴えていた。

乳幼児の健康管理体制の確立をめざして展開したこれらの結果を総括すると、1歳6か月児の事後指導を充実させることが最も重要である。そのためには、1歳6か月児健診後に2～4か月毎の密度の濃い経過観察健診の実施、未受診児や経過観察児の家庭訪問指導をはじめ、2歳代に問題の有無をチェックする機会を設ける等、事後指導のシステム化を図る必要がある。

システム化にあたっては、1歳6か月児健診から3歳児健診までの間に幼児相談の機会を開設することが望まれ、その際には、アンケート調査等を併用した選択健診や相談が望ましい。

事後指導にあたっては、発見された疾病、異常に対する保健指導、経過観察、専門医療機関への紹介等があるが、これらの実施については、どのような内容のものを、どこの機関が担当すればより効果的かの具体的な指針が必要である。

それには、地域内の各関係機関の連携を密

にし、それぞれの機能に応じた役割分担を明確にしなければならない。今回の研究結果から、養育、養護に起因していると思われる食事、しつけ、行動上、生活習慣、社会性の問題等については、継続的な指導が必要であり、児の生活の場により身近な立場にある保健婦が主体となり、関係者の助言を得て指導を担当することが最も効果的であり妥当であることが確かめられた。言語や精神発達の診断、訓練を必要と思われる児は児童相談所、精神衛生センター等、身体面に関する診断等が必要と思われる児については、それぞれ専門医、専門医療機関へ紹介し、対応すべきである。

実施にあたっては、本研究においても各関係機関との連携のもとに事例を中心に検討を重ねてきたが、なお残された問題も多く、さらに検討をすすめ、事後措置の体系化を図りたい。

表1 経過観察の選定基準および年度別重点状況

項目	選定対象	選定基準	各年度の重点				選定基準の妥当性
			52	53	54	54	
身体発育	身長、体重、カウプ指数が各々10パーセントイル値未満及び90パーセントイル値以上の児	計測欄から左の対象の範囲で選定	◎	◎	◎	◎	○
精神発達	精神発達、言語、社会性の問診で発達の問題や問題行動が疑われる幼児	問診で次の言語発達、行動上、社会性について、各項目のいづれかに該当した場合 1. 言語発達 (1)「名前を呼ぶとふりむきますか」と答え「いいえ」と答えている児でこえの悪くない場合 (2)「ワンワン、プーナー」など意味のある片言を言わない (3)話さない場合に「絵本を見ても指ささない」「他の子どもにも関心を示さない」項目を加味する 2. 行動上、「子どもさんの様子で心配なことがありますか」で次の項目のいづれかに該当した場合 (1)異常におとをしい (2)周囲の人に無関心 3. 社会性、次の項目のいづれかに「いいえ」と答えた場合 (1)「相手になってやると喜びますか」 (2)「他の子どもにも関心をもちますか」		◎	◎	◎	◎
運動機能	粗大運動(歩行)微細運動が未熟な児	問診で、次の項目のいづれかに該当した場合 1.「よく歩けない」の該当は必ず対象にする 2.なぐり書きしない児や積木がつかめなかったり、ぎこちないもの 3.階段をのぼることができないの該当は、歩行の項目を加味する	○	◎	◎	◎	◎
養育・養護	虐待や放任等、養育面で問題のある幼児	問診欄で次の1～7に該当するもの3項目以上チェックされた場合 1.上着を自分で脱ぎとりしない 2.自分で食べようとしない 3.おしっこのおしつけをしない 4.食事内容の考慮をしない 5.おやつの時間をきめていない 6.哺乳びんをやめる努力をしない 7.むし歯予防について努力していない		◎	◎	○	◎
食事	食生活で問題のある児	問診欄で、次の質問項目に該当する場合 1.「よく食べますか」の ①むら食い ②ひどい偏食 2.おやつとの与え方に問題のある場合	◎	◎	◎	◎	○
疾病	疾患異常又は狭い継続して経過観察健康診を要する児	1.診断所見の結果、要精検となった児で、継続して観察を必要とした場合 (例) ダウン症候群 C P 股脱 2.問診欄で「かかりやすい病気がありますか」で無熱時のひきつけの既往のある場合		◎	◎	○	○

◎は重点

表2 1歳6か月児健診で所見のあった児の3歳児健診の状況(身体面)

区 分	3 歳					
	要 医 療	要 精 検	要 追 跡	要 指 導	異常なしまたは治療	
1 歳 6 か 月 児	要 医 療			ひきつけ 1		皮膚の疾病 7 脱 水 症 1 色素性母斑 1
	要 精 検					○ 脚 1 内 反 足 1 歩 行 異 常 1
	要 追 跡			心 雑 音 1 聴 觸 症 候 群 1 先 股 脱 1		斜 視 2 先 股 脱 1
	要 指 導				皮膚の疾病 1	皮膚の疾病 3 不 静 脈 1
	正 常	皮膚疾病 6 眼のク 2 咽頭のク 1	ひきつけ 2 皮膚の疾病 1 上腹部腫瘤 1 頻 尿 1 顔 色 不 良 1			皮膚の疾病 12 鼻・咽頭のク 2 胸部嚢診異常 2 機能性心雑音 1 耳の疾病 1 胸廓のク 1 ひきつけ 1 そ の 他 4

表3 3歳児健診で行動上の問題のあった児の1歳6か月児健診での状況

区 分	1 歳 6 か 月 児 健 診 で の 状 況								
	特 に 問 題 な し	か ん が 強 く よ く く ず る	キ ー キ ー と 声 を た て る	や ん ち や	甘 え る	指 し や ぶ り 等 習 癖 あ り	か み つ く 物 を 投 げ る	計	
3 歳 児 健 診 で の 行 動 上 の 問 題	指しやぶり・爪かみ 毛布を離さない	数率 5.6 78.8	6 8.4	1 1.5	3 4.5		5 7.0	7.1 100.0	
	わがまま	数率 2.3 6.7	8 23.6	1 2.9		1 2.9		3.4 100.0	
	左きき	数率 1.5 7.1	4 19.0				2 9.5	2.1 100.0	
	泣き虫	数率 1.1 8.4	1 7.7	1 7.7				1.3 100.0	
	乱暴	数率 7 63.7	3 27.3					1 100.0	
	計	数率 1.12 7.4	2.2 14.7	3 2.0	3 2.0	1 0.7	7 4.6	2 1.3	15.0 100.0

表4 1歳6か月児健診で行動上の問題のあった児の3歳児健診での状況

区 分	3 歳 児 健 診 で の 状 況									
	特 に 問 題 な し	乱 暴	わ が ま ま	人 み し り	友 を ほ し か る 友 を い じ わ る	指 し や ぶ り 等 習 癖 あ り	泣 き 虫	あ き や す い	計	
1 行 動 か 上 児 健 診 で の 問 題	かんが強く よくくずる	数率 8 25.8	3 9.7	8 25.8	3 9.7	3 9.7	3 9.7	2 6.5	1 3.1	3.1 100.0
	短気、あばれる	数率 3 42.9	1 14.3	1 14.3			2 28.5			7 100.0
	指しやぶり等 習癖あり	数率 1 14.3	1 14.3				5 71.4			7 100.0
	計	数率 1.2 26.7	5 11.1	9 20.0	3 6.7	3 6.7	10 22.2	2 4.4	1 2.2	4.5 100.0

「2歳児の育児上の問題に関するアンケート」

から問題と思われる児の訪問指導結果

表5 訪問対象者

区 分	人数	内 訳		
		既に観察 している児	訪 問 実施数	
養 育 者 の 考 え	よくひきつけを起す	1	0	1
	上手に走れない	12	4	8
	他の児にくらべて 発達が遅れている	3	2	1
	他の児にくらべて 知恵が遅れている	1	1	0
	他の児にくらべて 言葉が遅れている	51	6	45
	動きが極端に少ない	1	0	1
計	69	13	56	

表6 訪問結果

区 分	訪問実 施数(人)	訪問結果		
		正 常	観 察 に 必要を児	
養 育 者 の 訴 え	よくひきつけを起す	1	0	0
	上手に走れない	8	8	0
	他の児にくらべて 発達が遅れている	1	1	0
	他の児にくらべて 知恵が遅れている	0	0	0
	他の児にくらべて 言葉が遅れている	45	29	16
	動きが極端に少ない	1	1	0
計	56	40	16	

表7 1歳児の罹患状況に関する調査
月平均罹患回数と児の条件

児の条件			罹患回数 (月平均)		0.5回未満		0.5～0.9回		1.0～1.5回		1.5回以上	
			人	率	人	率	人	率	人	率		
性 別	男	54	16	29.7	18	33.3	12	22.2	8	14.8		
	女	68	24	35.3	28	41.2	14	20.6	2	2.9		
出生季節	冬 期	45	14	32.6	18	41.8	10	23.3	1	2.3		
	夏 期	40	13	32.5	11	27.5	8	20.0	8	20.0		
	温 暖 期	39	13	33.3	17	43.6	8	20.5	1	2.6		
出生体重	～2.99kg	39	13	33.3	9	23.1	14	35.9	3	7.7		
	～3.49kg	51	16	31.4	28	54.9	5	9.8	2	3.9		
	3.50kg	23	9	39.1	8	34.8	2	8.7	4	17.4		
養 育 者	母	79	27	34.1	32	40.5	13	16.5	7	8.9		
	祖 母	26	9	34.6	9	34.6	7	26.9	1	3.9		
	保 育 所	6	1	16.7	2	33.3	2	33.3	1	16.7		
職 業	農 業	23	5	21.8	14	60.8	3	13.1	1	4.3		
	ホワイトカラー	38	17	44.7	11	28.9	6	15.9	4	10.5		
	ブルーカラー	31	9	29.0	15	48.4	5	16.1	2	6.5		
	自 営 業	20	6	30.0	5	25.0	9	45.0	0	—		
回 胞	な し	28	6	21.4	12	42.9	8	28.6	2	7.1		
	1 人	67	25	37.3	25	37.3	12	17.9	5	7.5		
	2 人	27	9	33.3	9	33.3	6	22.2	3	11.1		
栄 養 法	母 乳	25	7	28.0	12	48.0	5	20.0	1	4.0		
	混 合	27	10	37.0	9	33.3	5	18.6	3	11.1		
	人 工	60	21	35.0	23	38.3	2	20.0	4	6.7		

表8 食品摂取頻度

摂取頻度の多い食品

順位	1歳6か月児		3歳児	
	食品名	A(%)	食品名	A(%)
1	ごはん	93.6	ごはん	97.3
2	牛乳	91.0	牛乳	77.5
3	卵	68.3	卵	71.8
4	せんべい	64.9	乳酸飲料	53.4
5	とうふ	57.5	アイスクリーム	47.2
6	ビスケット	52.7	つけもの	46.7
7	ふりかけ	52.6	ハムソーセージ	46.1
8	りんご	50.0	炭酸飲料	43.4
9	乳酸飲料	47.6	せんべい	42.6
10	バナナ	45.0	とうふ	40.9
11	つけもの	44.3	ふりかけ	40.7
12	にんじん	42.4	バナナ	38.9
13	食パン	40.9	りんご	37.5
14	きゅうり	37.6	食パン	37.1
15	アイスクリーム	37.4	あめキャラメル	36.7

摂取頻度の少ない食品

順位	1歳6か月児		3歳児	
	食品名	A(%)	食品名	A(%)
1	レバー	2.3	ひじき	2.0
2	ひじき	3.3	レバー	2.3
3	さけ	6.2	さけ	6.8
4	ガム	6.3	ピーナツ	9.3
4	イカ	6.3	かぼちゃ	9.7
6	ピーマン	8.4	つくだ煮	10.3
7	チョコレート	9.0	あじ	10.4
8	つくだ煮	9.5	ピーマン	10.8
9	牛肉	10.9	さつまいも	11.1
10	ピーナツ	11.2	カレー・ヒラメ	13.1
11	さつまいも	13.4	牛肉	13.6
12	あじ	13.8	イカ	15.6
13	かぼちゃ	15.6	鶏肉	16.5
14	鶏肉	18.7	チーズ	16.9
14	カレー・ヒラメ	18.7	ヨーグルト	17.0

A …… 1週間の食品摂取頻度 $\Sigma y \dots (x_1 \times 7) + (x_2 \times 3.5) + (x_3 \times 1.5)$

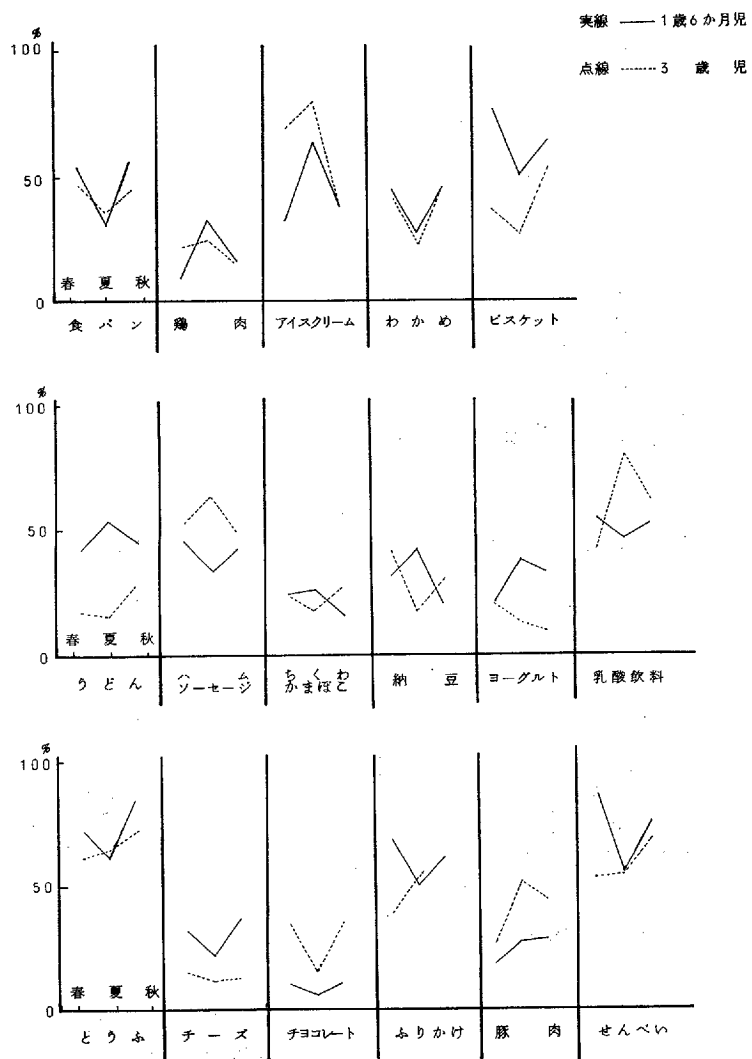
$$A = \frac{\Sigma x}{n \times 7} \times 100$$

n : アンケート調査人員

Σx : 1週間の摂取延数

$\left\{ \begin{array}{l} x_1 \dots \dots \text{ほとんど毎日食べる人の数} \\ x_2 \dots \dots \text{週に3~4回食べる人の数} \\ x_3 \dots \dots \text{週に1~2回食べる人の数} \end{array} \right.$

図1 季節別食品摂取状況(週5~4回以上摂取しているものの率)





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1.はじめに

地域における乳幼児健康管理体系の確立を図るため、昭和 52 年度から、富山県中新川郡立山町において、1 歳 6 か月児健診事業を中心に、そのシステム化について検討してきた。今年度は更に 1 歳 6 か月児健診から 5 歳児健診への継続的な幼児健康管理の体系化を目的に 1 歳 6 か月児と 5 歳児の両健診を受診した 237 名について、健診結果を対比し、養育上、健康上の問題について検討した。又、幼児の実態を把握する為に、1 歳児の罹患状況に関する調査・幼児食調査・養育者の育児に関する意識調査等の検討を加えたので、その結果を報告する。